

## 中地区公民館運営審議会 書面審議概要

### 1 書面審議概要

書面開催理由 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため

(1) 名 称 第8期 第2回 中地区公民館運営審議会

(2) 書類発送 令和4年2月18日

(3) 意見集約 令和4年3月 8日

(4) 書面審議関係者(敬称略)

① 委 員 安原達夫(議長)、津野香(副議長)、安久津ひかり、石井葉子、上出裕香、  
遠藤道子、永井一哉、野本洋平、藤井正人、村山幹夫、

② 事務局 中地区公民館 佐藤博之(館長)、池田美都(主任)  
石山地区公民館 関口亨(館長)

### 2 書面審議内容

#### (1) 令和2年度事業評価シートの委員意見について

意見 ・実施した事業では、参加者数が気になるとは思いますが、数量的要素より参加者の反応の方が大事です。たまたま沢山集まったけど心には殆ど残っていない。これはあまり意味がない。参加者に楽しんだり喜んで貰いたい。

・木戸公民館について、厳しい意見が散見しますが、私の記憶では2年前から同じような意見があがっていたと思います。2年前と現在を比較して我々の意見が反映しているとは思えません。もちろん、閉館するなどの判断は、運営審議会だけではできないと思いますので、我々の意見を然るべき部署にお伝えしてみたいかがでしょうか。(お伝え済みでしたら申し訳ありませんが、それでも状況が変わらないことは違和感があります。)例えば、閉館する場合、木戸公民館の事業は石山に移す、または地元コミ協へお願いする、などを本格的にご検討してみたいかがでしょうか。

公民館・木戸公民館の在り方については、委員皆様のご意見はもとより、施設取得の経緯もあり、地域の皆様のご意見もお聞きする必要があると考えています。また、廃止する場合でも、公民館機能の移転先やその後の土地利用などについても、併せて検討していかなければならないと考えています。

現在、本市におきましては、市全体の公共施設の在り方について見直しを行っており、施設の集約化や多機能化を進めつつ、サービス機能の維持に努めていくこととしています。今後、各地域(中学校区単位)において、地域の皆さまからご参加いただくワークショップを開催し、市が公表した再編案を「たたき台」として議論していきます。その中で、地域の皆様の思いや地域課題を丁寧にお聞きし、各地域の再編計画となる「地域別実行計画」を策定し、施設の再編を進めていきます。

そのため、木戸公民館におきましても、このワークショップの中で、施設の存続や機能移転について、ご議論いただくこととしています。なお、「たたき台」の中では、木戸公民館は10年以内に廃止し、その機能を木戸コミュニティセンターに集約する案が示されています。

木戸公民館事業については、令和4年度より石山地区公民館事業として整理し、施設の在り方については、地域別実行計画の策定を待ちたいと考えています。

(2) 令和4年度事業に関する委員提案について

- 意見 ・面白いと思ったのは、「使わなくなった物を活用して、新たな物作り」と寄席です。どこかで見たことがあるのですが、大きな缶詰の空き缶で三味線を作ったり、楽しく、面白い企画が盛り上がりますね。
- ・村山委員と安原委員の事業を合わせて2回連続で行うことでより高い関心をもってもらえると思いました。例えば、1回目に「…まち歩き」を実施して、1回目の内容を受けて2回目に「●●地名サミット」を開催するのはいかがでしょうか。別々に開催することでもよいと思いますが、2つを連続して実施することでより郷土愛など高まると思いました。

(3) 令和4年度事業計画について

- 意見 ・中地区は5/35が新規事業です。非常に前向きで期待できます。やる気が数字に出ています。それに対して石山は事業数が22で新規はゼロである。石山地区はパワーがあるのですよ。
- ・(中地区)No.13 東区子育てボランティアスタッフ研修会は回数が1回だが連続講座となっている。令和3年度計画では2回の連続講座だったが、変更があるのか？もしくは単に間違いですか？  
(石山)No.7 シングル子育てカフェ ひとり親家庭の問題はいろいろあると思うので、様々な情報提供が必要になると思う。市や区との連携もあると良いと思います。また、どちらかというとシングルマザーよりの情報がよく聞かれるが、シングルファザーへの情報提供が少なすぎると思うので、そういうところも入れられるといいと考えます。
  - ・ご検討ありがとうございます。コロナの影響でご苦労されていると思いますが、多様な事業を企画されていると思います。
  - ・家庭における教育力の向上の支援について、コロナ禍であるにも関わらず、積極的に講座を企画して下さりありがとうございます。きっと多くの子育て世代の糧となることと思います。ただ、1点気になったのが「連続講座」ということです。連続であることのメリットも分かりますが、私の周りのお母さん達は、コロナの為、急に保育園がお休みになったり、上の子が学校に行けなくなったりと、急な予定変更を余儀なくされている方がいらっやいます。そんな中、連続講座となると、本来行きたくても全て行けるか分からないから断念する方もいらっやるのではないのでしょうか？連続講座より単発講座の方が、このコロナ禍においては、合っているような気がしました。
- 公民館・(中地区)東区子育てボランティア研修会は、連続講座となっているのは誤りで、1回講座です。
- ・家庭教育学級については、参加者の仲間づくりの場となるよう連続講座としていますが、ご指摘のように単発講座の方が参加しやすい、この講座だけ受講したいというご意見もありますので、幼児期、小学生期の家庭教育学級の中で検討したいと思えます。

#### (4) その他

意見 ・コロナ禍となって3年目ですか。今やウィズコロナと言うことで付き合いつつ云わば共存せざるを得ないと世界中がシフトを変えています。私達も多少のリスクがあっても生きて行くしかない訳で、全て中止する。あるいは企画しない。と言う方向では充実した暮らしとは言えません。前進しましょう。

・令和2年度から続くコロナ禍での公民館事業の実施に向けた準備・取り組みは大変なものと思います。これまでの経験なども含めて、できるだけ中止せずに実施をするよう、これからも工夫していただければありがたいです。

・〈子どもの問題、子育てについての基本的視点、姿勢など〉公民館事業の重点項目2「家庭における教育力向上の支援」という表現が以前から気にかかっています。理由は以下のとおりです。

- ① 子どもの教育や子育てが“家庭の教育力”であると前提しているように思える。
- ② 子どもの問題を、家庭と限定せずに、もっと広い視野からとらえ直すことが必要と考える。

公民館・子どもの教育や子育てにおいて、「家庭の教育力」を前提としているということではなく、出発点としてとても大事なものと考えています。また、子育ては家庭だけではなく、地域全体で支えていくものと考えていますので、公民館では「ひだまり」や「ともだちひろば」といった、地域のボランティアスタッフによる子育て支援にも力を入れています。

学校教育が始まる前段階である、乳児期、幼児期においては、家庭での教育が、これからの学びの出発点であるということ、そして、しっかりとした家庭教育が、その後の子どもの成長に大きな影響をあたえてくるものだと考えています。家族とのふれあいの中で、子どもたちは、基本的な生活習慣や生活能力、人に対する思いやり、自尊心を身に付けることになるものと思います。

また、子育てをする親にとっては、子育ては喜びだけではなく、不安や疲労感、孤独感など様々な悩みを抱えることとなります。そういった子育ての悩みやストレスを軽減し、子どもたちと向き合うことができるようになることも含め家庭の教育力として、その向上の支援に努めていきたいと考えています。

・各委員よりいただきましたご意見は、今後の公民館事業に活かしていきます。

#### 3 送付資料

- ・資料の補足説明
- ・資料1 令和2年度事業評価シートの委員意見(集約)
- ・資料2 令和4年度事業に関する委員提案
- ・資料3-1 令和4年度事業計画 中地区公民館
- ・資料3-2 令和4年度事業計画 石山地区公民館
- ・意見記入シート